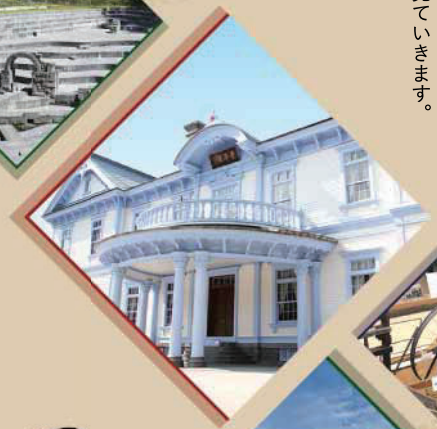
テーマでたどる さっぽろの文化財

札幌にはさまざまな文化財があり、それらをひもとくことで、札幌の歴史や文化をより深く知ることができます。この特集では、広報さっぽろキャラクターのギュウ太と一緒に、文化財の魅力について見ていきます。

詳細 文化財課☎(211)2312



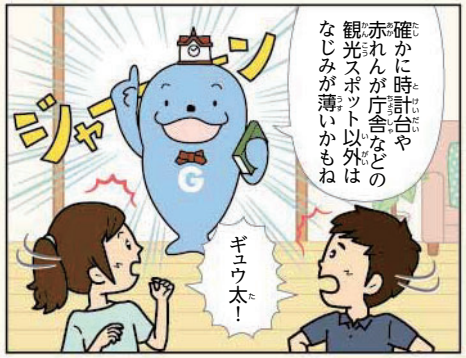
登場人物

ギュウ太
南区で太古の化石が発見されたジュゴンの仲間「サッポロカイギュウ」の子孫。世話好き

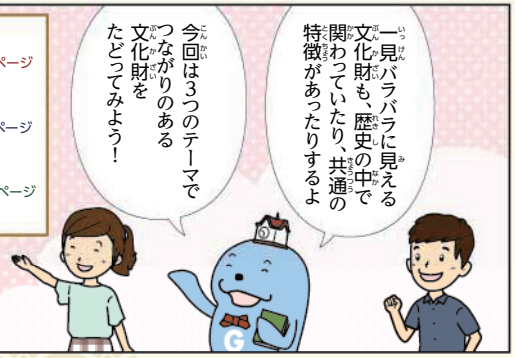
ヒロキ
道外出身で寒さが苦手。少しドジだが、どこか憎めない

リコ
ヒロキの2歳年上の妻。ヒロキの失敗をいつも優しく見守る

※新型コロナウイルス感染症の影響により、施設が休館している場合があります



その1 開拓使と五稜星 ……8ページ
その2 大友堀と札幌黄 ……9ページ
その3 札幌軟石の広がり …10ページ



次のページへGO!

その1 開拓使と五稜星

北海道を開発した開拓使によって、札幌のまちづくりやものづくりが進められました。開拓使ゆかりの建物には赤い星のマークが刻まれており、今でも輝いています。

開拓使とは？

近代化と産業振興に取り組む明治政府が、明治2(1869)年～15(1882)年、北海道の開発のために設置した機関のこと。多くの外国人技術者を招き、近代の技術を積極的に取り入れました。また、南下するロシアなどから国を守るため、普段は農業などで生活し、有事の際は兵士として働く屯田兵制度も始まりました。

▲明治6(1873)年に完成した開拓使札幌本庁舎(北海道大学附属図書館所蔵)

創成川の東側にできた工業地帯

開拓使により、水車や蒸気のエンジンを動力とした製材や木工、製粉や製糖、みそ・しょうゆの醸造など、さまざまな工場が整備されました。船の交通や輸送の便が良く、豊平川の流水を工業用に使える創成川の東側が工業地帯に。明治23(1890)年に製糖工場として建築されたサッポロビール博物館など、北海道の産業史を知る上で貴重な「札幌苗穂地区の工場・記念館群」は、北海道遺産にも選定されています。

▲国産ビール醸造の歴史などを学べるサッポロビール博物館(東区北7東9)

建物に刻まれた五稜星

五稜星(ごりょうせい)は北極星をモチーフにした開拓使のシンボルで、開拓使の建物や直営工場の製品に赤い星のマークが付けられていました。時計台や豊平館といった文化財の外観などに今も残っています。

▶明治13(1880)年に、ホテルとして現在の中央区北1西1に建てられた豊平館。昭和33(1958)年、中島公園内に移築

時計塔の設置から140年を迎える時計台

五稜星が使われている時計台は、明治11(1878)年に札幌農学校(現在の北海道大学)の演武場として建設。時計塔は建物完成から3年後に設置され、電気を使わない重りの力で1日156回、毎時間時刻の鐘を鳴らしています。

所在地 中央区北1西2
開館時間 8時45分～17時10分(入館は17時まで)
休館日 1/1～3
入館料 200円(高校生以下無料)
詳細 ☎231-0838

その2 大友堀と札幌黄

開拓使が札幌のまちづくりを始めたとき、東西を分ける基軸としたのが、大友堀と呼ばれる水路でした。整備された生活基盤は、札幌産タマネギ「札幌黄」の生産にもつながりました。

大友堀とは？

札幌の開拓時に農場を造るため、幕府の役人だった大友亀太郎(おおともかめたろう)が、慶応2(1866)年に札幌村(現在の東区)付近に開削した用排水路のこと。豊平川の分流を水源として、現在の南3条付近から北6条へ北上し、さらに東北方向に延ばした約4kmにわたる大工事によって造られ、船での物資輸送ルートとしても大きな役割を果たしました。

▲▶大友堀と見られる写真(上)と「明治4年及5年札幌市街之図」(右)(いずれも北海道大学附属図書館所蔵)

大友堀は創成川へ

大友堀に架かる橋が創成橋と名付けられたことをきっかけに、明治7(1874)年に大友堀は創成川となりました。現在では堀の大半は埋め立てられていますが、一部が創成川として残っているほか、碁盤の目の中に斜めの道が残っています。

▶創成川公園の南1条通近くにある大友亀太郎像

農業の発展とともに生まれた札幌黄と丘珠獅子舞

大友堀が整備され農地の開発が進んだ札幌村では、西洋野菜の栽培も盛んに。明治13(1880)年ごろに日本で初めてタマネギ栽培に成功。品種改良されてできた「札幌黄」は、船積み食料として重宝され、本州だけでなくロシアなど海外にも輸出されました。また、人々が収穫に感謝して丘珠神社に奉納した丘珠獅子舞は、最初の市の無形文化財に指定され、現在も受け継がれています。

▲肉厚でやわらかく、加熱後の甘みが強い札幌黄

▼例年9月中旬の祭りで披露される丘珠獅子舞(2018年撮影)

当時の貴重な資料を保管している札幌村郷土記念館

かつて大友亀太郎の役宅があった場所に立つ記念館。敷地と収蔵資料の一部が「札幌村・大友亀太郎関係歴史資料及び史跡」として市の文化財に指定されており、農場に関する当時の記録や、札幌玉葱(たまねぎ)記念碑などが見られます。

所在地 東区北13東16
開館時間 10時～16時
休館日 月曜、祝・休日の翌日、12/29～1/5
入館料 無料
詳細 ☎782-2294

その3 札幌軟石の広がり

明治以降、多くの建物に使われ、北海道の産業と暮らしを支えた札幌軟石。北海道遺産にも選定されたほか、現在も南区で切り出され、さまざまな用途で使われています。

札幌軟石とは？

約4万年前の支笏（しこつ）火山の大噴火による火砕流の噴出物が、冷えて固まったものです。開拓初期、建物は木造で火災が多かったことから、開拓使が外国人技術者の助言を受けて軟石の耐火性に注目。加工もしやすく、倉庫や店舗など多くの建物に使われました。

▲タマネギ倉庫として使われていた、昭和37（1962）年建築の旧沼田家倉庫（現・豆蔵珈琲宮田屋東苗穂店）

▶内装にも軟石が使われている、昭和15（1940）年建築の旧石山郵便局（現・ぽすとかん）

馬車が通っていた石山通

軟石や硬石の採掘が始まると、石材を運ぶために、山鼻と石山を結ぶ馬車道が造られました。その後、馬車鉄道が開業したことをきっかけに、石材を運んだ道として「石山通」の名で定着。石材は大正時代に開業した定山渓鉄道でも運ばれており、今に残る唯一の駅舎が、旧石切山駅です。

▲明治45（1912）年撮影の馬車鉄道（交通局所蔵）

▼基礎部分に軟石が使われている、大正7（1918）年建築、昭和24（1949）年改築の旧石切山駅（現・石山振興会館）

札幌軟石の新しい魅力

▲軟石の採掘場跡の岩肌や彫刻作品がある石山緑地

▲軟石が使われている市民交流プラザ内の壁

軟石の建物は鉄筋コンクリートの普及により減少しましたが、残っている建物は飲食店などに活用されています。また、軟石は雑貨やインテリアとしても利用されるなど、用途を広げて今も市民の暮らしに取り入れられています。

資料館（旧札幌控訴院）が国の重要文化財に

大正15（1926）年に、札幌控訴院（現在の高等裁判所）として建設。現存する最大級の札幌軟石の建物であり、多彩な石加工技術が見られるなど歴史的価値が評価され、昨年12月に国の重要文化財に指定されました。

所在地中央区大通西13
開館時間9時～19時
休館日月曜（祝・休日の場合は翌平日）、12/29～1/3
入館料無料。ミニギャラリー、研修室の貸し出しは有料（要予約）
詳細☎251-0731

自分のペースで文化財を詳しく知ろう！

外出が難しいときでも、市内の文化財について学べる便利なコンテンツを紹介します。

札幌市文化財データベース

市内の指定文化財や登録文化財、ふるさと文化百選などを、キーワードや分類といったさまざまな条件を設定して検索できます。

札幌市文化財データベース 検索

さっぽろ文化財散歩

歴史・文化のストーリーに基づいて、市内の文化財を周遊できます（歴史文化のまちづくり推進協議会発行）。

さっぽろ文化財散歩 検索

札幌の文化財、文化財めぐりMAP（マップ）

市内の指定・登録文化財を中心に、写真付きで詳しく紹介。場所が一目で分かるマップもあります。

※マップは印刷物のみ　札幌の文化財 web 検索

※パンフレットなどの配布場所は、文化財課（中央区北1西2時計台ビル内）までお問い合わせを

歴史文化の魅力あふれる街に

これまで見てきたように、文化財は市民の皆さんや来訪した方に札幌の個性や魅力を伝えられる大切な財産です。いろいろな文化財から街の歴史や文化について知識を深めてみませんか。